

ジオパーク活動の基礎

当地域のジオパーク活動の基礎は、2000年の有珠山噴火後の地域復興計画である、エコミュージアム構想から始まりました。2009年に当地域がUGGpに認定されてから、10年が経過した2019年までの主な歩みは、下図のとおりです。

2000年（平成12年）	有珠山噴火 人的被害なし、経済的損害 230億円余
2001年（平成13年）	レイクトピア21 ^{※1} に、洞爺湖周辺エコミュージアム ^{※2} 構想策定部会設置
2004年（平成16年）	ユネスコの支援により世界ジオパークネットワーク（GGN）設立
2006年（平成18年）	レイクトピア21を発展的に解消、洞爺湖周辺エコミュージアム推進協議会設置
2007年（平成19年）	日本ジオパーク連絡協議会設立（会長：糸魚川市長、副会長：壮瞥町長 他）
2008年（平成20年）	ジオパーク認定に向け、洞爺湖周辺エコミュージアム推進協議会に、洞爺湖有珠山ジオパーク科学検討委員会を設置
9月	日本ジオパーク委員会（JGC）による現地審査
12月	洞爺湖有珠山地域が日本ジオパークに認定
2009年（平成21年）	日本ジオパークネットワーク（JGN）設立（日本ジオパーク連絡協議会の組織替）
7月	世界ジオパークネットワーク（GGN）による現地審査
8月	洞爺湖有珠山地域が世界ジオパークに認定
2010年（平成22年）	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会設立
2012年（平成24年）	日本ジオパーク再認定審査 → 再認定
2013年（平成25年）	世界ジオパーク再認定審査 → 再認定
2015年（平成27年）	世界ジオパークがユネスコの正式事業になる。
2016年（平成28年）	日本ジオパーク再認定審査 → 再認定
2017年（平成29年）	ユネスコ世界ジオパーク再認定審査 → 2年の条件付き再認定（イエローカード）
2018年（平成30年）	日本ジオパーク再認定審査 → 再認定
2019年（令和元年）	ユネスコ世界ジオパーク再認定審査

※1 レイクトピア21

1983年（昭和58年）、洞爺湖周辺6市町村（当時）が、国や北海道に対する整備の要望や地域の調査研究を行うために発足した組織

※2 エコミュージアム

地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式などを展示品とみなし、住民参加型で地域全体を「屋根のない博物館」として活用する取り組み